



津波防災拠点施設

海辺の安心のために

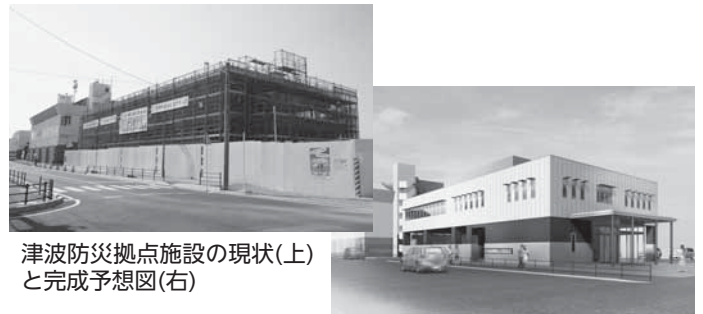
一 港町地区津波復興拠点整備一

港町地区では、昨年の津波避難デッキ完成に続き、津波防災拠点施設の建設など、防災機能の強化を目的とした事業を進めています。

津波防災拠点施設

マリングート塩釜に連結し、津波避難デッキとも間接的に連結する施設で、災害時には避難デッキと機能を合わせ近隣住民や観光客の一時避難場所になります。また、悪天候などで市営汽船が欠航となった場合には、乗客の一時避難場所としても活用されます。

今年秋ごろ完成予定です。



津波防災拠点施設の現状(上)と完成予想図(右)

マリロードしおかぜの舗装整備・避難サイン整備

避難デッキの開通に併せ、路面排水を改善するための舗装整備を行っています。加えて、災害時に迅速に避難ができるよう、19箇所に避難サインの設置も進めています。



避難デッキへと続く「マリロードしおかぜ」

今後予定している事業

マリングート塩釜西側駐車場で土地かさ上げ整備を開始する予定です。



☎ 復興推進課都市基盤復興係 ☎ 355-6593

毎日のラジオ体操で心も体も健康に！

今月で、清水沢地区災害公営住宅は、3号棟の完成から1年、1、2号棟の完成から10カ月が経ちました。その清水沢地区災害公営住宅では、入居者の発案から安心して暮らせる地域づくりの一歩として、毎日ラジオ体操を行っています。

■ 毎日顔を合わせるきっかけに

入居者同士が触れ合う機会を作るため、自立支援相談員と協力して始めたラジオ体操の発案者は市営清水沢東住宅3号棟監理補助員の佐々木勝政さんです。佐々木さんは「入居開始当初はみんな部屋から出てこなかったが、ラジオ体操の呼びかけをしてから集まるようになりました。みんな集まって行うラジオ体操を楽しみにしている人も多く、入居者同士のつながりができてきてうれしいです。」と話されました。

市営清水沢東住宅3号棟
監理補助員 佐々木勝政さん

■ 参加者の声

5月上旬スタート時からほぼ毎日参加している大宮愛子さんと菊地邦子さん。おふたりは「このラジオ体操はみんなでやっているので続けられています。認知症予防にもなると思うし、ラジオ体操後にみんなでお話できるのも楽しいです。」と笑顔で話されました。

多いときでは20人くらい集まって
楽しく体操しています大宮愛子さん
(右)
菊地邦子さん
(左)

☎ 生活福祉課総務係 ☎ 364-1131